

名探偵 ホームズとドイル

*Sherlock Holmes
and A. Conan Doyle.*
*One life with two curricula vitae,
in the Victorian age.*



河村幹夫
Kawamura Mikio

ヴィクトリア時代の一つの人生、二つの履歴

Kawamura Mikiō

河村幹夫

名探偵 ホームズとドイル

Sherlock Holmes and A. Conan Doyle.

One life with two curricula vitae, in the Victorian age.

ヴィクトリア時代の二つの人生、
二つの履歴書

海竜社

【著者紹介】

河村幹夫（かわむら みきお）

1935（昭和10）年生まれ。一橋大学経済学部卒業後、三菱商事に入社。ニューヨーク、モンテリオール、ロンドンで海外駐在を含め36年間勤務の後、多摩大学教授に転職。現在は同大学名誉教授。博士（経営学）。昭和女子大学監事。統合リスクマネジメント研究所長。ロンドン・シャーロック・ホームズ協会会員。平成元年に著書『シャーロック・ホームズの履歴書』（講談社現代新書）で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。専門分野としているリスクマネジメント関連も含め著書多数。京浜急行電鉄株式会社社外取締役、株式会社ホテルニューグランド顧問、日本財団評議員など多分野で活躍している。著書はこの他に『われらロンドン・ホームズ協会』（筑摩書房）、『コナン・ドイル——ホームズ・SF・心霊主義』（講談社現代新書）、『シャーロック・ホームズの冒険と回想——私の複眼人生術』『シャーロック・ホームズの新たな冒険——サラリーマンにノーサイドの笛が鳴る』（東洋経済新報社）、『倫敦酒脱探偵 商社マンの英国ウォッチング』『ドイルとホームズを「探偵」する』（日本経済新聞社）など、多数。近著に『人生は65歳からがおもしろい』（海竜社）がある。

名探偵ホームズとドイル

——ヴィクトリア時代の一つの人生、二つの履歴書

二〇一四年八月三日 第一刷発行

著者 河村幹夫

発行者 下村のぶ子

発行所 株式会社 海竜社

東京都中央区明石町十一の十五 テ一〇四—〇〇四四

電話 (〇三)三五四—一九六七（代表）

FAX (〇三)三五四—一五四八四

郵便振替口座 〇〇—一〇—九—四四八八六

ホームページ <http://www.kairyusha.co.jp>

本文組版 株式会社キャップス

印刷・製本所 シナノ印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えます。

©2014, Mikio Kawamura. Printed in Japan

ISBN978-4-7593-1388-8 C0095

目次・『名探偵ホームズと Doyle——ヴィクトリア時代の一つの人生、二つの履歴書』

はじめに 大人の目で、知的にホームズと Doyle の世界を楽しむために 2

第1章 ホームズと Doyle が活躍した時代風景

——大英帝国の光と影のはざままで

世界に冠たる大英帝国——ホームズと Doyle が誕生した 1850 年代のイギリス 22

全世界の関心を引きつけた 1851 年の大博覧会／名君、ヴィクトリア女王の誕生／ヴィクトリア時代の礎となった新技術と新思想

ヨークシャーの田舎地主のせがれ、ホームズ——名探偵ホームズの少年時代 32

ホームズが育ったヨークシャーの風土／ホームズの家庭環境と子供時代

エジンバラの貧乏一家の長男、Doyle——文豪コナン Doyle の経歴 38

富と名声を手にした祖父、ジョン・ドイル／ドイル一家の落ちこぼれだった父、チャールズ／青年チャールズ、酒と汚濁の町エジンバラへ／待ちに待った長男、アーサー・コナン・ドイルの誕生

ドイル少年を貫く「騎士道精神」と「反骨精神」——ドイルの生涯を支える精神的支柱 45

一家を切り盛りする教育ママ、メアリ／メアリにたたき込まれた「騎士道精神」／ドイルの反骨精神に磨きをかけたスパルタ教育

生まれる前からの「与えられた条件」——厳格な階級制度の中での教育思想 52

最下層にとって、教育は無縁のもの／支配階層にとって、教育は絶対的支配を守るためのもの／国家の教育への遅い目覚め（教育法の制定——1870年）

第2章 名探偵ホームズ、彗星のごとく現る

——盟友ワトソンとの出会いと華々しい活躍

学生探偵、ホームズの登場——ホームズの運命を決定づけた老人の言葉 60

■事件番号①「グロリア・スコット号」／「探偵業こそが、あなたが身を立てるべき職業で

す／老トレバーの隠された秘密／法律・政治の場でも厳然と存在する階級制度／■事件番号②「マスグレューヴァ家の儀式書」／「僕は自分の知恵で生きることにしたのだ」／探偵としての前途に自信を深める

ホームズとワトソンの運命的な出会い——1881年から始まった二人の共同生活 72

ベーカー街221番地Bに居を構えて／ワトソン、不運と災難の戦争を経て／ワトソンが見る、ホームズの人となりと探偵としての資質

名探偵ホームズの快進撃——ワトソンの筆にのせて「事件簿」を次々発表 80

■事件番号③「緋色の研究」／ワトソンと組んだ記念すべき初仕事／盟友ワトソンと難事件を次々解決／■事件番号④「まだらのバンド」／■事件番号⑤「入院患者」／■事件番号⑥「花嫁失踪」／■事件番号⑦「第二のしみ」／■事件番号⑧「ライゲートの大地主」

ホームズ、探偵としての大失敗——ホームズより一枚上手の「あの女」 88

■事件番号⑨「ボヘミアの醜聞」／「あの女」に特別な感情を抱いたホームズ／冷静さを取り戻し、さらなる事件解決へ／■事件番号⑩「唇の振れた男」／■事件番号⑪「オレンジの種五つ」／■事件番号⑫「花婿失踪」／■事件番号⑬「赤毛連盟」／■事件番号⑭「瀕死の探偵」／■事件番号⑮「青いガーネット」

■事件番号①⑥「恐怖の谷」／3年後に待ち受ける、悪の帝王との避けられない対決／■事件番号①⑦「黄色い顔」／■事件番号①⑧「ギリシャ語通訳」／■事件番号①⑨「四つの署名」／■事件番号②⑩「バスカヴィル家の犬」／■事件番号②⑪「^{ふな}樞屋敷」／スコットランド・ヤードもホームズを頼りに／■事件番号②⑫「ボスコム谷の惨劇」／■事件番号②⑬「株式仲買店員」／■事件番号②⑭「海軍条約文書」／■事件番号②⑮「ボール箱」／■事件番号②⑯「技師の親指」／■事件番号②⑰「背中の曲がった男」／■事件番号②⑱「ウイステリア荘」／■事件番号②⑲「白銀号」／番犬はなぜ吠えなかったのか／■事件番号③⑩「エメラルドの宝冠」／■事件番号③⑪「最後の問題」／ホームズ、滝つぼに落ちて帰らぬ人に

第3章 ドイル、苦闘の医学生時代

——貧乏と家庭崩壊の中で

酒に溺れた父親と家庭を放置した母親——様変わりしたドイル一家の状況

II4

母親メアりに深い影響を与えた一人の男／ドイル一家での存在感を強めるウアーラー／ウアーラーへの反感をつのらせるドイル／ドイル一家のその後の運命

ついにエジンバラ大学医学部を卒業—— Doyle、一族の希望の星に

122

学士様 Doyle、フォーレイ家で大歓迎される／予想も目論見もかけ離れたマウンバ号の船医
／エルモアとのうたかたの恋／二人の将来に疑念を抱くメアリ

作家と医師の両立を目指して——肉体的にも精神的にも困窮した駆け出し医時代

131

「既成秩序」を超えた親友の診療スタイル／常軌を逸したバッドの日常行動／多額の収入を
もたらした過激な診療／駆け出し医 Doyle、徒手空拳での開業／開業するも、呼び鈴一つ鳴
らない日々

妻ルイズとの出会い——医学博士の学位取得と結婚

142

Doyleの生涯にとって素晴らしい年／Doyle、客引精神に目覚め、町の社交へ／医師のかた
わら、無署名での短編執筆／無署名作家 Doyleの初ヒット「J・ハバカック・ジェフスの
陳述書」／「大切なのは単行本の背に自分の名前が出ることだ」

ホームズと Doyleの前に現れた「切り裂きジャック」

——なぜホームズも Doyleもこの事件を無視したか

154

大英帝国の発展に包み隠された影／犯人自ら名乗りをあげ、犯行予告も／切り裂きジャック
事件は「ウートラ」だ

第4章 ホームズ、一躍スターダムへ

—— ホームズ物語の大成功

ホームズとドイルにとって決定的な年、1891年

—— ホームズが大人気となつたいくつかの要因

162

時代の追い風にのつて、ホームズ爆発的人気／＼ホームズの颯爽とした事件さばきとヤードの探偵たちの愚鈍さ／＼ドイル、本格作家としてのスタート

順風満帆の作家生活と医業生活の不成功——「自分の天分は作家にあり」

171

作家と医師を両立させるために／＼眼科専門医への転身／＼ドイル、白衣を捨て作家として生きる

ホームズとドイルの確執——ホームズの抹殺を考えはじめたドイルの心境

178

作者を凌駕する「ホームズ現象」／＼ドイルの純文学への道を邪魔するホームズ

人生の大試練に立ち向かうドイル——妻ルイズ、不治の病に冒される

182

愛する妻が結核に／＼精神病院の中で息を引きとつた父親チャールズ／＼「ガスターフェルの外

科医」から感じられる Doyle 一家の絆／悲劇に彩られていたチャールズの生涯

Doyle、憧れのアメリカ旅行へ——Doyle が見た 1880 年代のアメリカ ¹⁹²

スイスに移り住み、妻の病氣療養に専念／大英帝国が世界に君臨し続けるために／ダボスに移り、せっせと執筆／大成功を収めたアメリカ講演会シリーズ

1894 年 4 月。ホームズ、奇跡の復活——Watson、ホームズとの再会に至福の境地 ²⁰⁰

■事件番号³²「空家の冒険」／モラン大佐に仕掛けた罠／ホームズ、復活後も次々と事件を解決／■事件番号³³「金縁の鼻眼鏡」／■事件番号³⁴「三人の学生」／■事件番号³⁵「孤独な自転車乗り」／■事件番号³⁶「黒ビーター」／■事件番号³⁷「ノーウッドの建築士」／■事件番号³⁸「ブルース・パティントン設計書」／■事件番号³⁹「覆面の下宿人」／■事件番号⁴⁰「サセックスの吸血鬼」／■事件番号⁴¹「スリー・クォーターの失踪」／■事件番号⁴²「修道院屋敷」／大衆の支持を得たホームズの勧善懲悪思想／■事件番号⁴³「悪魔の足」／ホームズ、動機を重視して殺人犯を許す／■事件番号⁴⁴「踊る人形」／■事件番号⁴⁵「隠居絵具師」／■事件番号⁴⁶「犯人は二人」／■事件番号⁴⁷「六つのナポレオン」／■事件番号⁴⁸「ソア橋」

第5章 妻と恋人の間で深まる苦悩の日々

—— Doyle の「二重生活」の始まり

不倫の恋に踏み込んだ Doyle —— 1897 年、ジーン・レッキーとの運命の出会い

226

美しく魅力にあふれたジーン・レッキー／妻ルイーズには騎士道精神で、恋人ジーンには愛を求める男として／ヴィクトリア時代の不倫の恋のあやうさ／「その時まで」……。Doyle の深まる苦悩

Doyle の見た戦争と政治 —— 1899 年 9 月、ボア戦争勃発

234

災いの種々になった南アでの金鉱発見／Doyle の性格を見抜き、出兵を引き留める母親メアリ／世論を戦争に駆り立てる為政者たち／Doyle が経験した「戦争」と帰国後の政治への傾倒

ヴィクトリア時代からエドワード時代へ

—— 新しい世紀の幕開けの中のホームズと Doyle

243

静かに傾きだした大英帝国／快刀乱麻の活躍を続けるホームズ／■事件番号 49 「プライオリ学校」／■事件番号 50 「シヨスコム荘」／■事件番号 51 「三人ガリデブ」／■事件番号 52 「フランシス・カーファックス姫の失踪」／■事件番号 53 「高名の依頼人」／■事件番号 54 「赤い

輪」／■事件番号55「白面の兵士」／■事件番号56「三破風館」／■事件番号57「マザリンの宝石」／■事件番号58「這う人」／突如知らされた「ホームズの引退」／■事件番号59「獅子のたてがみ」／■事件番号60「彼の最後の挨拶」

妻ルイーズに訪れた「その時」——1906年7月、49歳で永遠の眠りに 255

ドイルの再婚に対し、理解していたルイーズ／ドイルの正義感に火をつけた「エダルジ事件」／「強きに抗し、弱きを助ける」ドイルの騎士道精神

女性たちの自立意識の目覚め——少しずつ姿を現しはじめた新しい時代 263

「エドワード時代のある女性の田園日記」から／女性が教養を積み上げ、社会的認知を得るための教育手段／新興ブルジョワジー層の女性たちに関きはじめて新しい道

第6章 作家としての絶頂期と第一次大戦

——大英帝国の不滅を信じて

1908年のロンドンオリンピック開催

——熱烈サポーター、ドイルの見たオリンピック

オリンピックで悪化した英米対立／「ドランド・レース」の興奮／問われる、オリンピックのあり方

100年前の元祖SF小説、「失われた世界」執筆

——「半分大人の子供、半分子供の大人」に向けて

275

ドイルが想い憧れる理想のイギリス紳士「チャレンジャー教授」／途方もない冒険物語／いたずら好きで、冒険心に富んだルーズベルト大統領／大衆小説家として生きることを決意／次々に発表した奇想天外な三つの作品／心靈主義者ドイルを示唆する『毒ガス帯』

1914年、第一次世界大戦勃発——不確実性の時代のはじまり

290

大衆小説家として、多方面に筆を振るう／大英帝国、ゆるやかに衰退へ／スポーツ支援の名を借りた、ドイツの敵情視察／ドイルの予感の中、悲惨な戦争の勃発

100年前の歴史に見る、現代の類似性——現代の米国は、100年前の英国である

301

愛国者ドイル、55歳の身で一兵卒として参加／ドイルの周辺にも近づく、戦争の死神／責めるべきは「危険の存在にあえて気づこうとしない自己満足感」

第7章 心霊主義への転向、そして「次なる世界へ」

——文豪コナン ドイルは、次なる世界で生き続ける

心霊主義者ドイルの誕生——確信と不信のはざま

310

知識人ドイルの突然の心霊主義への転向声明／心霊主義への関心を自然に醸成した血筋と環境／世間の不信感が募る一方で、心霊主義への確信を深めるドイル／一躍有名になった「ハイズヴィル事件」／依然として「心霊主義」は「異端」のまま

妖精の裏切り？ 妖精写真の眞贋論争——最後まで写真の信憑性を信じて

328

身近な存在、妖精（フェアリ）／妖精の写真撮影に成功した田舎の少女たち／66年後、写真が贋物と認める

心霊主義の布教にすべてを投じて——ドイルの心霊主義研究の集大成

337

「予は如何にして心霊主義者となりしか」／科学者の心霊主義無視を激しく非難

「次なる世界」への新しい出発——新しい心霊の世界で生き続ける

343

「問題なのは、今、自分は何をなすべきなのかということだけ」／ジーンと二人の息子たちに

見守られて／ドイルの「愚直な生き方」が現代の私たちに示すもの

エピソード ドイルと日本——「ジェランドの航海」

350

ドイルが描いた幕末の日本／日本に行かずに日本を描く

おわりに——

356

コナン ドイルの系譜

359

コナン ドイル 解説付年譜

360

名探偵ホームズと Doyle

——ヴィクトリア時代の一つの人生、二つの履歴書

はじめに　　大人の目で、知的にホームズとドイルの世界を楽しむために

1854年生まれのホームズは1903年に引退したが今も生きている。

1859年生まれのドイルは1930年に「次なる世界」に旅立った。

ホームズは世界でただ一人の私立諮問探偵を志し、数多くの難事件を解決した。その中の60事件だけが主として盟友ワトソンの筆にのって記録されている。

ドイルは医師―作家―そして晩年には心靈主義者として、その相貌を変えながら、最後まで節を曲げず愚直に人生を生き抜いた。

同時代を生き抜いたこの二人にはどのような接点があり、愛憎があつたのだろうか。なぜドイルは自分が創り上げたホームズを滝つぼに落として抹殺を図つたのか。それでも不死身のホームズは3年後に奇跡的に復活を果たした。